令和４年３月２２日

報 道 機 関　各位

経済産業省令和 3 年度「産学連携推進事業費補助金
（地域の中核大学の産学融合拠点の整備）」採択事業

富山型資源循環モデル創出を目指した産官学金連携アルミリサイクル拠点の整備について

（記者会見のご案内）

■ 概要

　このたび、富山大学では、経済産業省令和３年度「産学連携推進事業費補助金（地域の中核大学の産学融合拠点の整備）」事業に申請し、採択いただけることとなりました。

　本事業採択を受け、本学高岡キャンパス内に「先進軽金属材料国際研究機構先進アルミニウム国際研究センター」の共同研究棟を新設移転し、呉西地区から富山県、ひいては日本のアルミニウム産業を活性化し、リサイクルアルミニウムの研究を推進するため、DX に対応したアルミリサイクル技術実証・検証ミニプラント「Plant Zero」を設置します。

　ついては、以下のとおり記者会見を開催しますので、取材・報道方よろしくお取り計らい願います。

■日時・場所　他

日　時：令和４年３月２３日（水）　１４：３０～１５：１０
場　所：富山大学五福キャンパス　災害対策プラザ２階

出席者：

齋藤　滋　　富山大学長
北島　勲　　富山大学研究担当理事
柴柳　敏哉　富山大学先進アルミニウム国際研究センター長
　　　　　　先進軽金属材料国際研究機構副機構長

ほか関係者

【本発表資料の配信元】富山大学総務部総務課広報・基金室 （TEL)076-445-6028 （FAX)076-445-6063

■内容

＜令和３年度「地域の中核大学の産学融合拠点の整備」に係る補助事業目的・趣旨＞

※公募要領より一部抜粋

地域経済が、デジタルトランスフォーメーション（DX）やカーボンニュートラル（CN）の流れに対応しながら成長を続けるためには、地域企業が大学等（国公私立大学、高等専門学校、以下「大学等」という。）の保有する高い研究力を十分に活用しながら連続的なイノベーションを起こし地域活性化を促すことが必要です。地域の中核大学等には、強みを持つ最先端の研究分野が存在しているものの、大学等の投資余力不足等によって、研究力の低下、産学連携機能の低下を引き起こし、研究の社会実装が十分に進んでいない状況がイノベーション推進の律速となっている場合が散見されます。

そのため、大学等が、産業界と一体的に自らの知を活用し、研究開発力を高めることで、事業化を加速し、日本の産業力の底上げに資することが期待されると共に、産業界の研究開発資金を積極的に産学連携等に投資されることで、オープンイノベーションが促進されることも期待されています。これらの効果は、地域の中核大学等の強みを生かしたプラットフォーム構想を選抜し、集中して支援することで、その検証が可能であると考えます。

本事業は、企業との共同実験施設・設備の整備、オープンイノベーション推進施設・設備の整備を支援するものです。

＜本事業の今後の展開＞

新設する共同研究棟内（令和５年３月竣工予定）に、ＤＸに対応したアルミリサイクル技術実証・検証ミニプラント「Plant Zero」を設置します。この他、建物内には全国から共同利用・共同研究のため来学した研究者や学生が滞在し研究を遂行することができる「共同利用研究室」や、学生や教員、企業の研究者が気軽に集い、情報交換やディスカッション等の交流の場となる「コラボスペース/コラボラウンジ」、地域の企業等が入居し、リサイクル等に関する共同研究を進める事ができる「オープンラボ」等を設置します。

＜ILMについて＞

先端技術の革新やSDGsおよびSociety5.0の達成には、軽金属材料の革新が大きなカギを握っており、世界各国が戦略材料に位置付けて研究開発を精力的に進めています。我が国が真に伸ばすべき重点技術課題として、軽量高強度材料や次世代バイオマテリアル、マルチマテリアル化、マテリアルの高度循環が挙げられています。一方、これらの重点技術を育成する拠点形成の必要性がうたわれており、特に、大学等が連携して地域産業群の特徴を踏まえた、軽金属材料を総合的に取り扱う共同研究拠点が早急に必要とされていることから、令和３年４月に富山大学と熊本大学の連携により、「先進軽金属材料国際研究機構（ILM)」を設置しました。令和４年４月からは文部科学省「共同利用・共同研究拠点」として活動します。

【本発表資料のお問い合わせ先】

富山大学学術研究部都市デザイン学系　教授　　柴柳　敏哉

TEL：076－445－6831(直通)　　Email：toshiya@sus.u-toyama.ac.jp